

<h2>今、そなえの時 1ペテロ 4:7-11</h2>	<p>2024.2.4 中央 NO.718 春日部福音自由教会 山田豊</p>
------------------------------	---

2月はボーイスカウト運動の創設者であるベーデンパウエルの誕生日を覚えるイベントが行う団があります。彼の名前の頭文字を取って、BP祭というのですが、これは英語の Be Prepared 「そなえよつねに」ということにもつながります。日本のボーイスカウト連盟歌には「手足に心に、ああ準備」というフレーズがあります。本日の聖書箇所は、まさに備えることを私たちに語っている神からの手紙として受け取ることができます。

ペテロはまず「万物の終わりが近づきました」と書きます。神に造られたものすべて、そこには人間も含まれているのですが。終わりの時があってその終わりの時はすぐ近くまで来ているという、警告のことばです。もっとも、神の目には一日は千年のようであり、千年は一日のようであるので、終わりの時がいつなのか、私たちには知らされていません。この辺りのことは黙示録を読んでいただきたいと思います。また、「地獄の黙示録」といった映画や小説のタイトルのように、終わりの時は破滅の時ではなく、イエスキリストの再臨によって新しい天と新しい地が開ける、希望の時なのです。聖書に書かれている終わりのしるし(マタイ 24, ルカ 21 など)が、実にリアルに起きているように感じます。それゆえ、備えることがいよいよ大切になってきました。

本日のテキストでは、備えるべきこととして4つのことが挙げられています。第1は、祈りのために心を整え身を慎むことです(7節)。終わりの時の備えは、慌てて何かをすることではなく、まず静まって神の声を聞くことから始まるのです。第2は、互いに愛し合うことです(8節)。雪に閉ざされた中で、白クマが子熊を抱いてじっと寒さに耐えているように、私たちの罪が神の愛に覆われるとき、おのずと悔い改めと赦しに導かれるのです。第3は、互いにもてなし合うということです(9節)。聖書の土地や書かれた時代では、信者の家で、弟子たちを迎え、彼らの伝道の旅を支えたのでした。現代では教会の中だけでなく、外の人たちのためにも、もてなしの業は大切な働きなのです。第4は、賜物を用いることです(10-11節)。静けさから始まった終わりの時の備えは、具体的な活動になっていくのです。それは神の言葉を語ることであり、互いに奉仕をすることです。そしてこのような備えがすべて、神の栄光のためになされるのです。

今こそ、神に会う備えをしっかりとしてまいりたいものです。

引用聖句

2 ペテロ 3:8 しかし、愛する人たち、あなたがたはこの一つのことを見落としてはいけません。主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。

1 ヨハネ 4:11 愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた、互いに愛し合うべきです。

箴言 10:12 憎しみは争いを引き起こし、愛はすべての背きをおおう。

ボーイスカウト日本連盟歌

「花は薫るよ」 作詞：葛原しげる、作曲：山田耕作

花は薫るよ 花の香に

日は輝くよ 日の光

我等に名誉の重きあり

薫りか光りか ああ名誉

名誉 名誉 重きぞ名誉

フレ フレ フレ

スカウト我等の 名誉ぞ重き

眼開きて 見極めよ

耳そばだてて 聞きただせ

我等に不断の準備あり

手足に心に ああ準備

準備 準備 固きぞ準備

フレ フレ フレ

スカウト我等の 準備ぞ固き